

指導と評価の年間計画 現代文B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
現代文B	2年	2	現代文B (数研出版)	クリアカラー国語便覧 (数研出版)

科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
学習活動	<p>①授業 講義、質疑応答の形で授業をすすめることが中心となります。意見発表やスピーチ、図書館やインターネットを使つてのグループでの調べ学習やプレゼンテーションや、感想文、小論文を作成することもあります。 漢字語彙などの基礎力の定着を確認するための小テストなども行います。</p> <p>②家庭学習 考えを深めたり、語彙力を高め、定着させるために漢字・語句の意味を調べたり、教材を音読して要約を書くなどの予習をします。授業後のノートの整理、理解したことのまとめ直しなどの復習もします。早い時期から予習→授業→復習のサイクルを習慣化することが大切です。 また、幅広いジャンルの文章に触れるために自学自習用のワークブックを課題として定期的に提出してもらいます。夏や冬の休業中にもワークブック課題があり、休み明けには課題テストで自学自習の成果を確認します。</p> <p>※読書のすすめ 国語力だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めるためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを十分活用し、読書習慣を身につけます。定期的にブックレポートの提出を求めます。</p> <p>※定期考査、実力テストに向けて 年5回の定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、年間3回の実力テストは学習により身につけた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり準備して受けましょう。</p>				
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	○受講・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価	○受講・発表態度の観察 ○自己評価	○定期考査 ○課題の点検 ○自己評価	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検

年間指導計画（現代文B）

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 評論（一） 国境を越える言葉 手の変幻 ■ 小説（一） 山月記 ■ 評論（二） 胆力について 「内的成長」社会へ ■ 詩 発車 永訣の朝 ほか ■ 評論（三） 未来世代への責任 擬似群衆の時代 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 人間、社会、自然などに対して自分なりの考えを持つ。 <input type="checkbox"/> 文脈を考えながら語句・表現を読み取る。 <input type="checkbox"/> 文中の漢字は、その音訓に慣れ、文脈に応じた適切な使い方を理解し、読み書きできるようにする。 <input type="checkbox"/> 心情や情景、場面を想像力を働かせ読む <input type="checkbox"/> 場面や状況、登場人物相互の関係をとらえる。 <input type="checkbox"/> 心情や情景、場面を想像力を働かせて読む。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを明確に表現するよう努める。 <input type="checkbox"/> 本文の内容にあたる具体的事例を考えながら読む。 <input type="checkbox"/> 伝えたい内容をはっきりと、論理的に述べる。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて5つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小説（二） 三月の風 ■ 短歌と俳句 ■ 評論（四） 日本語は非論理的か ■ 小説（三） こころ 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本的な表現技法を理解する。 <input type="checkbox"/> 作者や時代背景について、必要な情報を収集し事実や事柄をとらえ、相手に伝えるため客観的に表現する。 <input type="checkbox"/> 人間、社会、自然などに対して自分なりの考えを持つ。 <input type="checkbox"/> 本文の展開に即して筆者の主張を理解し要約する。 <input type="checkbox"/> 段落を設けて効果的に表現する方法を理解する。 <input type="checkbox"/> 登場人物の心理を場面ごとに追い、その変化をとらえる。 <input type="checkbox"/> 主題をとらえて、人間の心理に対する理解を深める。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて5つの観点について評価をおこなう。</p>
備考			

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 古典 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
古典 B	2年	文系 4 理系 3	高等学校 古典 B (第一学習社)	クリアカラー国語便覧 (数研出版) 体系古典文法 (数研出版) 新明説漢文 (尚文出版)

科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
学習活動	<p>①授業 音読、朗読、暗唱で古典作品の持つリズム、テンポを体感し、身につけます。歴史的仮名遣いや、古典特有の語彙、古典文法、訓読のきまり、漢文句法などの読解のための基礎的事項を、ドリルトレーニングや小テストで習得します。基礎的事項の習得と並行して、作品の分析解釈を講義、質疑応答形式で学習していきます。時には作者などについてグループや個人で調べて発表するほか、レポートを作成してもらうこともあります。</p> <p>②家庭学習 現代文分野以上に家庭学習での予習が大切になります。古文は、音読み、ノートに本文を書き写し、品詞ごとに区切りをいれながら現代語訳をしていきます。漢文は、音読み、書き下し文を書き、現代語訳をします。辞書も活用します。授業内容の整理のためにその日のうちに復習し、予習→授業→復習のサイクルを習慣化することが大切です。また、自学自習用のワークブックを課題として定期的に提出してもらいます。長期休業中にもプリントやワークブックの課題があり、休み明けには課題テストで自学自習の成果を確認します。</p> <p>※定期考査、実力テストに向けて 年間 5 回の定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、年間 3 回の実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けましょう。</p>		
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	○受講・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価	○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検

年間計画（古典B） ※は文系のみ

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 説話 古今著聞集 沙石集 宇治拾遺物語 ■ 随筆（一） 徒然草 方丈記 ■ 物語（一） 竹取物語 伊勢物語 大和物語 ■ 随筆（二） 枕草子 ■ 物語（二） 源氏物語 大鏡 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 古典文法を理解し、その知識をもとに本文の内容を正確に読む。 <input type="checkbox"/> 古人の考え方、生き方にふれ、自分なりの考えを深める。 <input type="checkbox"/> 省略されている主語や目的語を把握して話の展開をたどる。 <input type="checkbox"/> 登場人物の心情、場面や情景を理解する。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 故事・寓話 ■ 古代の史話 十八史略 ※戦国策 ■ 漢詩の鑑賞 中国の詩 ※日本の詩 ■ 志怪と伝奇 新死鬼 ※枕中記 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 漢文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 文中に用いられている語の文脈における意味を正確にとらえて、文章の内容を的確に読みとる。 <input type="checkbox"/> 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 <input type="checkbox"/> 詩にうたわれている情景と心情とを関連付けてとらえる。 <input type="checkbox"/> 漢詩のきまりを理解する。 	
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日記 更級日記 建礼門院右京大夫集 十六夜日記 ■ 物語（三） 平家物語 義経記 ■ 和歌 万葉集・古今集・新古今集 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 筆者のものの見方、考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 敬語法を理解して、敬語の種類・敬意の主体・敬意の対象が説明できるようにする <input type="checkbox"/> 作品の意義や作者など文学史に関する事柄を理解する。 <input type="checkbox"/> 古文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 作品に書かれた時代の習俗や人々のものの考え方、歴史的事項などを理解する。 <input type="checkbox"/> 主題を読みとる。 <input type="checkbox"/> 和歌に託された心情を理解する。 <input type="checkbox"/> 枕詞や掛詞などの修辞法を理解する。 	<p>問題ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、演習を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 項羽と劉邦 鴻門之会 四面楚歌 ■ 道家の思想 老子 莊子 ■ 法家の思想 韓非子 ■ 宋・元代の史話 ※医薬談笑 ■ 三国志の世界 三国志演義 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 作品に描かれた人物、心情、情景などを自分なりに読み味わう。 <input type="checkbox"/> 文脈に注意しながら正確かつなめらかに音読する。 <input type="checkbox"/> 文章の主題や筆者の主張を読みとる。 <input type="checkbox"/> 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 	
備考	<p>文系古典4単位のうち、古文2単位、漢文2単位、理系古典3単位のうち、古文2単位、漢文1単位、として学習します。</p>		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 世界史 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
世界史 B	2年	4	新詳世界史 B (帝国書院)	世界史 B用語集 (山川出版社) アカデミア世界史 (浜島書店) よくでる一問一答世界史 (山川出版社)

科目の目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	<p>① 授業は、予習をしてきたうえで単元ごとに探究したい課題・問いを設定し、教科書や資料集などを用い、班学習などを通じた探究活動を中心に進めます。重要事項の補足としてプリントを配布しますので、予習・復習時に教科書・資料集を活用して空欄補充をしておくこと。</p> <p>② 授業プリントの空欄補充などを教科書・資料集を活用しておこない予習、復習をします。</p> <p>③ 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり問題集を解くなどして知識の定着を図ります。</p> <p>※ 書籍やテレビ、映画などを通じて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の大きな枠組みと流れをとらえることにより、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に判断する。	世界の歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、世界の歴史を我が国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学 期	単 元	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	1 部	諸地域世界の形成と交流		単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
		世界史への扉	<input type="checkbox"/> 過去の歴史的事実と現在の自分たちの生活と結びついていることを理解し、興味と関心をもつ。教科書で投げかけられている問いに答えることを通じて、歴史を学ぶ意義に気づく。	
		序章 人類の出現	<input type="checkbox"/> 人類の出現から文明の成立にいたるまでの先史時代を概観し、獲得経済から国家の形成に至る過程を学び、歴史時代へのつながりを認識する。	
		1章 オリエント世界と地中海世界	<input type="checkbox"/> オリエント世界と地中海世界の特質を気候・地形などと関連させてとらえるとともに、それが統合されて、西アジアとヨーロッパの原型がつけられていく様相を、アフリカを含めて歴史的・地域的にとらえる。	
		2章 サハラ砂漠以南のアフリカ	<input type="checkbox"/> 海洋と山脈に囲まれ、モンスーン気候の影響を大きく受けて、独自の文明世界を形成した南アジア世界の特色を把握し、同時に他地域との交流についても理解する。	
		3章 南アジア世界の形成	<input type="checkbox"/> 人口密度が低く、全域を支配する国家・宗教・民族は出現しなかったが、水上交通網の発達により商業と人の移動が活発で、外に開かれた流動性の高い独特な社会が形成されてきたことを把握する。	
		4章 東南アジア世界の形成	<input type="checkbox"/> 北の乾燥・畑作と南の湿潤・稲作という二重の農耕世界が広がるが、それを漢字文化が結びつけ、統一王朝が成立したことを把握する。同時に周辺国家形成との関連を理解する。	
		5章 東アジア世界のあけぼの	<input type="checkbox"/> 遊牧民とオアシス民が共存する中央ユーラシア世界が諸地域をつないできたこと、その中心的役割を担った騎馬遊牧民への理解を深める。	
		6章 中央ユーラシア世界の形成と展開	<input type="checkbox"/> 遊牧民の活動の活発化と中国の分裂時代が重なり、大きく変容した東アジア世界の状況を総合的にとらえるとともに、周辺地域の自立を把握する。	
		後 期	8 部	
9章 ヨーロッパ世界の形成	<input type="checkbox"/> ヨーロッパ世界が、ローマ＝カトリック圏とギリシア正教圏に分かれながらも、ローマ帝国の伝統とキリスト教によって独自の世界を形成していったことを把握する。			
10章 ユーラシア大帝国の出現	<input type="checkbox"/> モンゴル帝国は従来から内陸交易で結ばれていたユーラシア大陸の農耕・牧畜両世界を統合したものであり、世界の一体化の過程において一大画期となったことを把握する。			
2 部	海洋による世界の一体化			
1 部	1 部	1章 アジア諸地域の栄華と成熟	<input type="checkbox"/> モンゴル帝国の後継国家としての明・清、またオスマン帝国などのイスラーム諸王朝が強大かつ柔軟な統治体制をつくりあげ、独自の文明を発展させたことを理解する。	
		2章 大規模な分業体制の成立	<input type="checkbox"/> 「大航海」により、西欧を中核とする近代世界システムが形成され始めたこと、および西欧内部でもルネサンスと宗教改革が起こり、主権国家体制の形成につながっていったことを理解する。	
		3章 ヨーロッパ諸国の主権強化と大西洋三角貿易	<input type="checkbox"/> 「17世紀の危機」に対処すべく、ヨーロッパ諸国では変革が行われたこと、主権国家体制にそくした近代的な国際関係ができてきたこと、またイギリスとフランスが世界各地で覇権を争ったことを理解する。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 日本史 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
日本史 B	2年	4	詳説日本史 B (山川出版社)	新詳日本史(浜島書店) 日本史重要語句Check List (啓隆社) 日本史用語集(山川出版社)

科目の目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	<p>① 授業はプリント学習を中心に行います。その際、より理解度を高めるために史料集や図説なども用いて学習を行います。</p> <p>② 基本は復習です。週末ごとに1週間の内容を、必ず教科書を読みながら復習しましょう。その際に、出来事・人物にのみ着目せず、時代背景や当時の価値観にも注目し、その時代のイメージをつくり、流れでとらえましょう。教科書に必要な内容は書いてあります。</p> <p>③ 覚えること(暗記)は不可欠ですが、丸暗記では役に立ちません。歴史事項の関連性を常に意識することが、授業でも復習でも肝要です。</p> <p>※ 書物やテレビや映画などにおいて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。また、社会的出来事に日頃から関心をもちましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	歴史的事象の仕組みや人間との関わりについて関心を持ち、積極的に課題を追求しようとする。	我が国の歴史についての理解をもとに、国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察し、自身の考えを言葉で表現する。	史料の内容を理解するだけでなく、その史料が編纂された歴史的背景についても考察し、発展的に歴史の流れを判断する。	歴史の系統的知識を身につけ、それらを統合し総合的観点から歴史の流れをとらえて理解し、物事を多角的・多面的にとらえる視点を身につけている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み	○課題への取り組み ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>第1章 日本文化のあけぼの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化の始まり ・農耕社会の成立 ・古墳とヤマト政権 <p>第2章 律令国家の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛鳥の朝廷 ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・天平文化 ・平安王朝の形成 <p>第3章 貴族政治と国風文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士 <p>第4章 中世社会の成立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院政と平氏の台頭 ・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自然環境や大陸からの文化の影響による生活の変化に着目して、旧石器、縄文及び弥生、古墳の各文化・時代の社会について比較・考察する。 <input type="checkbox"/> 日本における国家の形成と律令体制の確立の課程を理解する。 <input type="checkbox"/> 隋・唐など東アジア世界との交流に着目して、古代国家の展開・文化と、東アジア諸国との関係を考察する。 <input type="checkbox"/> 東アジア世界との関係の変化、荘園の成立過程について理解する。 <input type="checkbox"/> 公領の動きや武士の台頭など地方の動向に着目して、古代国家の変遷と国風文化の展開及び中世社会の芽生えについて理解する。 <input type="checkbox"/> 武士の土地支配と公武関係、宋・元とのかわりに着目して、武家政権の形成過程を理解する。 	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・元寇と幕府の衰退 ・鎌倉文化 <p>第5章 武家社会の成長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・室町文化 ・戦国大名の登場 <p>第6章 幕藩体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織豊政権 ・桃山文化 ・幕藩体制の成立 ・幕藩社会の構造 <p>第7章 幕藩体制の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 鎌倉新仏教など文化に見られる新しい動きを理解し、その発生要因について考察し、様々な形で表現する。 <input type="checkbox"/> 日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との交流、庶民の台頭に着目して、産業の発展や下剋上など中世社会の多様な展開について理解する。 <input type="checkbox"/> 武家、公家、民衆、それぞれが文化の発展にどう寄与したか、資料に基づいて考察する。 <input type="checkbox"/> 南蛮人の渡来と日本の変化を資料に基づいて読み解き、文章で適切に表現する。 <input type="checkbox"/> 幕藩体制の仕組みと鎖国形成の過程及びその影響を理解する。 <input type="checkbox"/> 初期の武断政治から文治政治への転換を理解する。 <input type="checkbox"/> 太平の世の到来は、人々の生産活動を活発化させ、経済発展を呼び込む。こうした動きが社会の広範な領域に与えた影響を、多面的・多角的に考察する。 	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 地理A

科目	学年	単位数	教科書	副教材
地理A	2年	2	高等学校 新版 地理A (第一学習社) 新詳高等地図 (帝国書院)	データブック オブ・ザ・ワールド2019 (二宮書店) 新編地理資料2019 (とうほう)

科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	<p>① 単元ごとに課題、問いを設定し、地理に関わる諸事象について思考・判断しその結果を表現していきます。</p> <p>② 基礎的な用語をおさえ、その用語を図に表したり表にまとめたりすることで理解を深めます。</p> <p>③ 問題集を用いて知識の応用・定着を図ります。</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておくことが、地理の学習の深化に繋がります。社会の変化にも目を向けてみましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意識的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、地域性を踏まえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、考察の過程や判断した結果を適切に表現する	地図や統計、画像など地域に関する諸資料から有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付ける。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>■ 現代世界の特色と地域課題の地理的考察</p> <p>第1章 地球儀や地図でとらえる現代世界</p> <p>第2章 世界の人々の生活を取りまく地理的環境</p> <p>第3章 世界の諸地域の生活・文化と環境</p>	<p>□ 地図の特徴と欠点を理解し、用途に応じた図法を選択できるようになるとともに、衛星画像やGISなど新しい地図表現の役割を理解する。</p> <p>□ 社会変化とともに、産業・国際貿易、国家間の結合などが活発化・複雑化していることを理解する。</p> <p>□ 自然環境を地形と気候の面からとらえ、差異の理由、気候帯と生活との関わりについて理解する。</p> <p>□ 世界の農業・鉱工業について、発達過程を地理的環境との関連で理解し、現在の分布状況や統計資料とあわせて考察する。</p> <p>□ 世界の人々の生活・文化は、歴史や自然環境に影響を受けることを理解し、日本の生活・文化を絶対視することなく、広い視野から異文化を理解・尊重する態度を養う。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<p>第4章 私たちが直面する地球的課題</p> <p>■ 生活圏の諸課題の地理的考察</p> <p>第1章 日常生活と結びついた地図</p> <p>第2章 自然環境と防災</p> <p>第3章 生活圏の地理的な課題と地域調査</p>	<p>□ 世界の諸地域の変化を資料から読み取り、他地域で暮らす人々の生活を想像する。</p> <p>□ 各地域における自然環境や産業、民族・宗教分布とその背景を学び、日本や世界との結びつきについて考察する。</p> <p>□ 様々な地球的課題について、課題の原因や背景について理解し、解決の方向性を調べ話し合う。</p> <p>□ 国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力について、グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。</p> <p>□ 身近にあるさまざまな地図を通して、地図を読むことの楽しさを体験するとともに、地形図の特徴について理解し、新旧地形図の比較から地域の変化を読み取ることができるようになる。</p> <p>□ 気候によって異なった特徴を見せる生活・文化について、グループで話し合う。地形の応じて暮らしてきた日本の村落・都市立地を理解する。</p> <p>□ 人々の生活に大きな影響を与える災害について、自然現象や歴史を理解するとともに、ハザードマップを通して、減災に向けての取り組みや地域防災力を高めるために個人ができることを話し合う。</p> <p>□ 日本の気候と農業、気候と河川の関係性について学習する。またハザードマップを読むなどの作業を通して、日ごろから備えることの重要性を理解する。</p> <p>□ 地域調査の方法を理解し、統計を地理情報に加工できる地理的技能を習得する。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 地理B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
地理B	2年	3	新編 詳解地理B 改訂版 (二宮書店) 新詳高等地図 (帝国書院)	データブックオブ・ザ・ワールド2019 (二宮書店) 新編地理資料2019 (とうほう)

科目の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	<p>① 単元ごとに課題、問いを設定し、地理に関わる諸事象について思考・判断しその結果を表現していきます。</p> <p>② 基礎的な用語をおさえ、その用語を図に表したり表にまとめたりすることで理解を深めます。</p> <p>③ 問題集を用いて知識の応用・定着を図ります。</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておくことが、地理の学習の深化に繋がります。社会の変化にも目を向けてみましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	○現代世界の地理的事象を系統地理的に、また現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識や地理的見方・考え方に関する関心と課題意識を高めたか。それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きるための責任を果たそうとしたか。	○現代世界の地理的事象から課題を見つけ出し、それを系統地理的に、また歴史的背景を踏まえて地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しようとしたか。	○地図や統計、画像等の地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択・活用することを通して、地理情報や地図の活用に関する技能を身につけたか。また、仮説を検証し、まとめ、発表する等の技能を身につけたか。	○地図の有用性を理解し地図の活用に関する地理的スキルを理解し、身につけたか。 ○現代世界の諸事象を系統地理的に考察する方法と現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を理解し、身につけたか。 ○現代世界に関する地理的認識や地理的な見方・考え方を理解し、身につけたか
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>■地図と地理的技能</p> <p>第1章 地理情報と地図</p> <p>第2章 地図と地域調査</p> <p>■現代世界の系統地理的考察</p> <p>第1章 自然環境</p>	<p>□リモートセンシングやGISによる地図が地球の現状認識に役立つことに気づき、地理情報が生活と結びついていることを理解する。</p> <p>□世界地図は球面上の情報をすべて正しく表現できないこと、地図の種類とそれぞれの特色を理解する</p> <p>□現代世界に関する統計を地理情報に加工できる地理的技能を習得する。</p> <p>□様々な地形の分布や形成要因から基礎的知識や概念を習得し、地形と生活との関係を考察する</p> <p>□地形図の読図に関する地理的技能を習得する。</p> <p>□世界規模での気温・降水量・大気大循環・水の循環・土壌・植生、気候帯を取り上げ、その分布や形成要因、気候と人々の生活との関連について考察する。</p> <p>□自然環境の諸問題に関する分布や形成要因を考察し、基礎的・基本的な知識を習得する。</p> <p>□世界の農林水産業を取り上げ、それぞれの特色や分布についての、基礎的知識を習得する。世界や日本の食料問題・課題について理解する。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<p>第2章 資源と産業</p> <p>第3章 人口と村落・都市</p>	<p>□世界の資源・エネルギーについての基礎的・基本的知識を習得する。世界や日本の資源・エネルギー問題を世界的視野に留意して概観させ、形成要因を考察させる。</p> <p>□世界の工業の成り立ち・立地について、工業地域の形成と変容に関して考察させ、グローバル化する中で世界と日本の工業に関して世界的視野に留意して、それらの動向・形成要因について考察させる。</p> <p>□世界の交通・情報通信・貿易・商業・観光について、基本的知識を習得し、それぞれの課題について考察する。</p> <p>□世界の人口分布、人口増加・人口構成について考察し、基本的知識を習得する。人口増加地域と減少地域の人口問題を比較しながら、日本の人口問題についても考察する。</p> <p>□村落・都市に関する基本的知識を習得する。世界と日本の居住・都市問題の地域性や形成要因について世界的視野に留意して考察する。地形図の読図から村落の形態を読み取る地理的技能を習得する。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 現代社会

科目	学年	単位数	教科書	副教材
現代社会	2年	2	現代社会 (東京書籍)	新現代社会要点ノート(啓隆社) 最新図説 現社(浜島書店)

科目の目標	広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。			
学習活動	① 授業では、演習ノート(サブノート)の空欄補充を中心に進め、教科書、図説などを用いて補足説明をする。 ② 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとに演習ノート(サブノート)の問題を繰り返し解くなどして知識の定着をはかりましょう。 ③ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持つように心がけましょう。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	○現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄に関心を高め、意欲的に追究しているか。 ○社会的事象を総合的に考察しようとする態度を身に付けているか。 ○平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付けているか。	○現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄から課題を見だし、広い視野から多面的、多角的に考察しているか。 ○課題について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果を様々な方法で適切に表現しているか。	○現代社会の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。 ○得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身に付けているか。	○現代社会の政治、経済、社会、国際関係、人間としての在り方生き方にかかわる基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身に付けているか。また、学び方を身に付けているか。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>■わたしたちの生きる社会</p> <p>テーマ1 地球環境と資源・エネルギー</p> <p>テーマ2 科学技術の発達と生命</p> <p>テーマ3 情報化の進展と生活</p> <p>■現代の社会と人間</p> <p>第1章 青年期と自己形成の課題</p> <p>1 現代社会と青年の生き方</p> <p>2 よりよく生きることを求めて</p> <p>第2章 日本国憲法と民主政治</p> <p>1 民主政治とは</p> <p>2 日本国憲法の基本原理</p> <p>3 日本の政治機構</p> <p>第3章 個人の尊重と法の支配</p> <p>1 個人の尊重と法の支配</p>	<p><input type="checkbox"/> 現代社会の諸問題について自己との関わりに着目して追究する学習を通して、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 生涯における青年期の意義と自己形成の課題について心理的な側面から考える。</p> <p><input type="checkbox"/> 自己実現と職業生活・社会参加にふれながら、青年の生き方について自覚を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 個人と国家、基本的人権と法の支配について歴史的な流れに沿って理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 日本国憲法の基本原則を平和主義、人権保障と新しい人権、裁判所、国会、内閣、地方政治、世論などを国民生活との関わりから考える。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本的人権の保障や法の支配の実現が大切なのかを考え、それが現代社会においてどのように規定されているかを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 自由と平等の関係を考え、他者と共存する社会を構築する意識を持つ。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。</p>
後期	<p>第4章 現代の経済と国民福祉</p> <p>1 経済のしくみ</p> <p>2 変化する日本経済</p> <p>3 豊かな生活の実現</p> <p>第5章 国際社会と人類の課題</p> <p>1 国際経済のしくみと動向</p> <p>2 国際政治のしくみと動向</p> <p>3 国際社会の現状と課題</p> <p>■ともに生きる社会をめざして</p>	<p><input type="checkbox"/> 現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、市場経済の仕組み、政府の経済的役割、租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害防止と環境問題、消費者保護問題について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 人権、国家主権と国際法、領土問題、地域紛争と人種民族問題、国際連合、核兵器廃絶、日本の安全保障などについて理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 国際社会における日本の果たすべき役割と日本人の生き方について考察する。</p> <p><input type="checkbox"/> 1年間学んだことをもとに、現代社会の課題とその解決法を主体的に考察し、人間の尊厳と生命の尊重について考えることができる。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 倫理

科目	学年	単位数	教科書	副教材
倫理	2年	2	倫理（第一学習社）	倫理ノート（第一学習社） 最新図説倫理（浜島書店）

科目の目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。			
学習活動	①授業は単元ごとに課題、問いを設定し、探究していく活動を中心におこないます。 ②サブノートの空欄補充を教科書・資料集を活用しておこない予習、復習をします。 ③復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり、問題集を解くなどして知識の定着を図りましょう。 ※日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める。 他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究する。	人類の抱える諸課題について、良識ある公民として広い視野に立ち、主体的かつ公正に判断し、その過程や結果を様々な形で適切に表現する。	諸資料を様々なメディアを通して収集し、そこから有用な情報を主体的に選択し、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用する。	自己形成や人間としての在り方・生き方、先哲の残した考え方を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、己の人格形成に生かす知識として身につけている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1章 青年期の課題と自己形成 (1) 青年期の意義 (2) 青年期の課題と生き方 第2章 人間としての自覚 (1) 人間とは何か (2) ギリシャの思想 (3) キリスト教 (4) イスラーム (5) 仏教 (6) 中国の思想 (7) 芸術と人間 第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 (1) 日本人の精神風土 (2) 外来思想と日本の伝統思想 (3) 西洋思想と日本人の近代化 (4) 国際社会に生きる日本人の自覚	<input type="checkbox"/> 青年期の特徴や課題を把握した上で、青年期の意義を理解する。 <input type="checkbox"/> 人間の精神の深い営みである哲学や宗教や芸術が人生に持つ意義を理解する。 <input type="checkbox"/> ギリシアの思想、キリスト教、仏教、儒教やイスラームなどの基本的な考え方を表す先哲の思想を、人間としての在り方・生き方を示す人生の指標として理解する。また、その理解をもとに、社会において自らの果たす役割について考察し、考えを深めることができる。 <input type="checkbox"/> 日本人が人間をどのように捉え、自然や宗教との関わりをどのように考えていたかを、自己との関わりにおいて理解する。 <input type="checkbox"/> 外来思想について学んだ知識を活用し、日本人の人間観、自然観、宗教観の形成に外来思想が果たした役割・影響について考察する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価を行う。
後期	第4章 現代を生きる人間の倫理 (1) 現代とはどういう時代か (2) 人間の尊厳 (3) 民主社会の倫理 (4) 新たな人間像の模索 (5) 自然や科学技術と人間のかかわり (6) 民主社会の成熟のために 第5章 現代の課題を考える (1) 生命 (2) 家族 (3) 地域社会 (4) 情報社会 (5) 文化と宗教 (6) 環境 (7) 国際平和と人類の福祉	<input type="checkbox"/> 先哲が人間をどのように捉え、人間の尊厳についてどこに根拠を求めつつ、どのように考えたかを理解する。 <input type="checkbox"/> 一人一人のものの見方や考え方、価値観は本来多様なものであり、これらを互いに尊重することが民主主義の重要な前提であることを理解する。 <input type="checkbox"/> 自然と人間との関わりについて多面的に捉え、自然とどのように関わり合って生きればよいかを考察する。 <input type="checkbox"/> 生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などに関わる、人間としての在り方・生き方に直接関係の深い倫理的諸課題について、課題とされている点について理解するとともに、その解決に向けた取り組みのあり方について考察する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅱ	2年	3	改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版)	改訂版クリアー数学Ⅱ B (数研出版) 改訂版ニューアクションβ数学Ⅱ B (東京書籍)

科目の目標	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 ③クリアーやニューアクションβから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付ける。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

※理系は数学Ⅱの履修終了後、数学Ⅲを履修します。次ページの年間指導計画は文系のものです。

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第3章 図形と方程式 2 円 3 軌跡と領域	<input type="checkbox"/> 座標平面上において、2点間の距離が求められる。 <input type="checkbox"/> 2直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。 <input type="checkbox"/> 点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用できる。 <input type="checkbox"/> 与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 <input type="checkbox"/> 円と直線の交点の個数を、判別式や点と直線の距離を活用して判断できる。 <input type="checkbox"/> 点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第4章 三角関数 1 三角関数 2 加法定理	<input type="checkbox"/> 弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。 <input type="checkbox"/> 三角関数の周期とグラフの形の関係、定義域に注意して正しいグラフがかけられる。 <input type="checkbox"/> 三角関数を含む方程式、不等式を解く際に単位円やグラフを図示して考察することができる。また、その解き方を理解している。 <input type="checkbox"/> 加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 三角関数の合成や各公式を活用して、三角関数を含む方程式や不等式を解くことができる。	
後期	第5章 指数関数と対数関数 1 指数関数 2 対数関数	<input type="checkbox"/> 指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 <input type="checkbox"/> 指数関数、対数関数を活用して、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 常用対数を利用して、桁数や小数首位を求めることができる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第6章 微分法と積分法 1 微分係数と導関数 2 関数の値の変化 3 積分法	<input type="checkbox"/> 平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 <input type="checkbox"/> 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> 方程式の実数解の個数を、関数のグラフとx軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 <input type="checkbox"/> 不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 <input type="checkbox"/> 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅲ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅲ	2年 理系	1	改訂版 高等学校 数学Ⅲ (数研出版)	改訂版クリアー数学Ⅲ (数研出版) 改訂版ニューアクションβ数学Ⅲ (東京書籍)

科目の目標	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 ③クリアーやニューアクションβから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
後期	第3章 関数	<input type="checkbox"/> 分数関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> 分数関数を $y = \frac{ax+b}{cx+d}$ の $y = \frac{k}{x-p} + q$ 形に変形し、漸近線を求めてグラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> グラフを利用することで、分数不等式を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 無理関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> 連立方程式を解くことで、無理関数のグラフと直線の共有点の座標を求めることができる。 <input type="checkbox"/> グラフを利用することで、無理不等式を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 逆関数の定義から、逆関数の定義域・値域や性質を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 合成関数の定義や求める手順を理解し、種々の関数の合成関数を求めることができる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。
	第4章 極限 1 数列の極限 2 関数の極限	<input type="checkbox"/> 数列の収束、発散を調べ、極限を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 不定形を解消するなど、数列の式を適切に変形することで、収束・発散を調べることができる。 <input type="checkbox"/> 数列の式の変形が容易でない場合、「はさみうちの原理」を用いて極限を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 無限等比数列を、公比の値で場合分けしその極限を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 無限級数の収束・発散を、部分和の極限を調べることで考察することができる。 <input type="checkbox"/> 無限級数、無限等比級数の定義を理解し、収束・発散について調べることができる。 <input type="checkbox"/> グラフを参考にしながら、関数の右側極限、左側極限、関数の極限の有無について考察することができる。 <input type="checkbox"/> $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin x}{x} = 1$ を利用して、三角関数を含む様々な関数の極限值を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 定義に基づいて、様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学 B	2 年	2	改訂版 高等学校 数学 B (数研出版)	改訂版クリアー数学 II B (数研出版) 改訂版ニューアクションβ数学 II B (数研出版)

科目の目標	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 ③クリアーやニューアクションβから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第3章 数列 1 等差数列と等比数列 2 いろいろな数列 3 数学的帰納法	<input type="checkbox"/> 初項と公差を文字で表して、条件から等差数列の一般項を決定できる。 <input type="checkbox"/> 等差数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 <input type="checkbox"/> 初項と公比を文字で表して、条件から等比数列の一般項を決定できる。 <input type="checkbox"/> 等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 <input type="checkbox"/> 数列の和を記号 Σ で表して、和の計算を簡単に行うことができる。 <input type="checkbox"/> 種々の数列の和を工夫して求めることができる。 <input type="checkbox"/> 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 <input type="checkbox"/> 群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。 <input type="checkbox"/> 漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 数学的帰納法を用いて等式、不等式を証明できる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後期	第1章 平面上のベクトル 1 ベクトルとその演算 2 ベクトルと平面図形	<input type="checkbox"/> ベクトルの加法、減法、実数倍の計算の仕組みを理解している。 <input type="checkbox"/> 成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。 <input type="checkbox"/> 線分の内分点、外分点を位置ベクトルで表す公式を理解している。 <input type="checkbox"/> 3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。 <input type="checkbox"/> 線分の長さ、垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。 <input type="checkbox"/> 直線上の点を位置ベクトルで考察し、直線の方程式と関連付けることができる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第2章 空間のベクトル	<input type="checkbox"/> ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用できる。 <input type="checkbox"/> 空間のベクトルを与えられた3つのベクトルで表すことができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。 <input type="checkbox"/> 3点で定まる平面上に点Pがあることを、ベクトルで表現して利用できる。	

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 物理基礎（2年文系）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
物理基礎	2年 文系	1	考える物理基礎 (啓林館)	実験プリント 問題プリント

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
学習活動	<p>◆ 1年次に学習した物理基礎の内容をもとに、物理現象についてより深く理解するために、既習の学習内容の補充・発展的な講義と観察実験、問題演習を行います。</p> <p>◆ 授業は実験書やノート、プリントを用いて、観察や実験などを通して、科学的に探究する能力と態度を身につけることを目指しています。</p> <p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとります。</p> <p>②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。</p> <p>③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。</p> <p>④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょ。</p> <p>◆ 様々な物理現象に興味を持ち、なぜだろうという疑問、知りたいと思う気持ちを大切にして、授業に臨みましょう。</p> <p>◆ 日頃より、新聞・テレビニュースなどにおいて、自然科学的出来事に関心を持っておきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な物理現象について関心をもち、それを物理学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。 観察結果を適切に判断できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。 考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な物理現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

指導と評価の年間計画 物理

科目	学年	単位数	教科書	副教材
物理	2年 理系	2	物理 (啓林館)	らくらくマスター物理基礎・物理(河合出版) ステップアップノート物理(啓林館) 物理図録(数研出版)

科目の目標	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>①授業前に教科書や図録を見ておくなど、能動的に授業準備をすることが理解を助けます。</p> <p>②【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとります。</p> <p>③【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。</p> <p>④【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。</p> <p>⑤【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。</p> <p>⑥【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について自分の理解度を確かめよう。</p> <p>⑦学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。(復習に役立つ問題プリントなどの課題を与えることもあります。)</p> <p>⑧授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な物理現象について関心をもち、それを物理学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な物理現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 第2章 剛体 第3章 運動量の保存 第4章 円運動と万有引力	<input type="checkbox"/> 平面上の運動を表す変位、速度、加速度をベクトル的に扱い、運動の3法則が成り立つことを理解する。 <input type="checkbox"/> 運動量や力積という物理量を知り、運動量保存の法則が成り立つことを理解する。 <input type="checkbox"/> 等速円運動の様子を数量的に表す方法を学習し、天体の運動と万有引力の法則について理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑦をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。
	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化	<input type="checkbox"/> 原子・分子の運動、温度や圧力の変化によって物質の状態変化が起こることを理解する。 <input type="checkbox"/> 理想気体の状態方程式や分子運動と絶対温度との関係、ミクロな立場からの比熱について理解する。	
後期	第3編 波 第1章 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方 第3章 光	<input type="checkbox"/> 波の表し方と横波・縦波について観察を通して理解する。 <input type="checkbox"/> 音の様々な現象について、波の観点から観察、実験を通して理解する。 <input type="checkbox"/> 光の様々な現象について波の観点から観察、実験を通して理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑦をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学基礎

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学基礎 (文系)	2年	2	改訂 化学基礎 (第一学習社)	スクエア最新図説化学 (第一学習社)

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。			
学習活動	<p>① 生徒自らが主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組みます。</p> <p>② 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめよう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問します。</p> <p>③ 配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をします。</p> <p>※ ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用しよう。</p> <p>※ 次時に学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨みます。その際、教科書傍用問題集を活用して、予習をします。余裕があれば、問題演習にもチャレンジします。</p> <p>※ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしましょう。</p> <p>※ 日頃から、身の回りの化学物質や化学製品に関心を持っておきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察、実験の技能	知識・理解
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>■第2章 物質の変化</p> <p>第1節 物質と化学反応式</p> <p>第2節 酸と塩基の反応</p>	<p>□ 元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を理解する。物質とその応用を理解する。アボガドロ定数の確認について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p>□ 物質の溶解と濃度について理解する。</p> <p>□ 化学反応における量的関係について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p>□ 酸と塩基の定義を理解する。酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。</p> <p>□ 中和を理解し、塩の種類を理解する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。中和滴定について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<p>第3節 酸化還元反応</p>	<p>□ 酸化・還元の定義を理解する。酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。</p> <p>□ 金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を理解する。金属のイオン化傾向について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p>□ 酸化還元反応の利用例として、電池の原理を学習する。酸化還元反応の利用例として、金属の製錬を学習する。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学基礎

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学基礎 (理系)	2年	2	改訂 化学基礎 (第一学習社)	スクエア最新図説化学 (第一学習社)

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。			
学習活動	<p>① 生徒自らが主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組みます。</p> <p>② 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめよう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問します。</p> <p>③ 配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習します。</p> <p>※ 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨もう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしよう。</p> <p>※ ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用しよう。</p> <p>※ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしよう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察、実験のの技能	知識・理解
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>■第2章 物質の変化</p> <p>第1節 物質と化学反応式</p> <p>第2節 酸と塩基の反応</p> <p>第3節 酸化還元反応</p>	<p><input type="checkbox"/> 元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を理解する。物質とその応用を理解する。アボガドロ定数の確認について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 物質の溶解と濃度について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 化学反応における量的関係について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義を理解する。酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 中和を理解し、塩の種類を理解する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。中和滴定について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 酸化・還元の定義を理解する。酸化剤、還元剤について理解し、それらの反応を理解する。酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を理解する。金属のイオン化傾向について、観察、実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 酸化還元反応の利用例として、電池の原理を学習する。酸化還元反応の利用例として、金属の製錬を学習する。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこなひ、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学	2年	2	改訂 化学 (第一学習社)	セミナー化学(第一学習社) スクエア最新図説化学(第一学習社)

科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>① 自らが主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組めます。</p> <p>② 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめよう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問します。</p> <p>③ 配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をします。</p> <p>※ 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨もう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしよう。</p> <p>※ ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用しよう。</p> <p>※ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしよう。</p> <p>※ 化学的な事物・現象に対する探究心を高めることができるよう、目的意識をもって観察や実験を行い、化学的に探究する能力と態度を育もう。</p> <p>※ 化学の基本的な概念や原理・法則に対する理解を深め、科学的な自然観を養おう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察、実験の技能	知識・理解
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
後期	<p>■第I章 物質の状態</p> <p>第1節 化学結合と結晶</p> <p>①化学結合と結晶の種類</p>	<p><input type="checkbox"/> 化学結合と結晶の性質について、復習する。</p> <p><input type="checkbox"/> 金属結晶・イオン結晶・共有結合の結</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つ</p>

<p>②金属結晶の構造 ③イオン結晶の構造 ④共有結合の結晶の構造 ⑤分子間力と分子結晶 ⑥非晶質</p>	<p>晶の構造について理解する。 <input type="checkbox"/> 分子間の結合、および分子結晶の性質や非晶質について理解する。</p>	<p>の観点について評価をおこなう。</p>
<p>第2節 物質の三態と熱運動 ①物質の三態とその変化 ②気体分子の熱運動と圧力 ③飽和蒸気圧と蒸気圧曲線 ④物質の融点・沸点と化学結合</p>	<p><input type="checkbox"/> 物質の三態変化を復習し、その変化に伴う熱の出入りを理解する。 <input type="checkbox"/> 気体分子の熱運動を復習し、気体の圧力が気体分子の熱運動と密接に関係することを理解する。 <input type="checkbox"/> 飽和蒸気圧を学習し、飽和蒸気圧と沸騰の関係を理解する。 <input type="checkbox"/> 化学結合と物質の融点・沸点との関係を理解する。</p>	
<p>第3節 気体の性質 ①気体の体積変化 ②気体の状態方程式 ③理想気体と実在気体</p>	<p><input type="checkbox"/> ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則をそれぞれ理解し、その応用を理解する。 <input type="checkbox"/> 気体の状態方程式を理解し、その応用を理解する。また、全圧と分圧を学習し、混合気体の平均分子量を理解する。 <input type="checkbox"/> 理想気体と実在の気体との違いを理解する。</p>	
<p>4節 溶液の性質 ①溶解と溶液 ②希薄溶液の性質 ③コロイド</p>	<p><input type="checkbox"/> 溶解のしくみを理解し、溶解度について理解する。 <input type="checkbox"/> 沸点上昇、凝固点降下、浸透圧の定量的な取り扱いを理解する。 <input type="checkbox"/> コロイドを理解し、その溶液の性質を理解する。</p>	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生物基礎

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物基礎	2年	1	生物基礎 (第一学習社)	生物基礎の必修整理ノート(文英堂) ニューステージ新生物図表(浜島書店) 生物の実習(岡山県高等学校理科協議会)

科目の目標	科学に関する課題を設定し、観察、実験などを通して研究を行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、創造性の基礎を培う。			
学習活動	<p>① 授業は単元ごとに課題、問いを設定し、探求していく活動を中心におこないます。</p> <p>② 整理ノートの空欄補充を教科書・図表を活用しておこない予習、復習をします。</p> <p>③ 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり、問題集を解くなどして知識の定着を図ります。</p> <p>※ 様々な生物の行動や機能などに興味を持ち、なぜだろうという疑問、知りたいと思う気持ちを大切にしてほしいと思います。</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースなどにおいて、自然科学的出来事に関心を持っておきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な生命現象について関心をもち、それを生物学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。 実験結果を適切に判断し対応できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。 考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な生命現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 (実験・実習の記録) ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 (実験・実習の記録) ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 (実験・実習の記録) ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	<input type="checkbox"/> 真核細胞には共通の構造があることを観察を通して理解を深める。 <input type="checkbox"/> 原核細胞の観察を通して理解を深める。 <input type="checkbox"/> 酵素の反応について理解を深める。 <input type="checkbox"/> 遺伝子の本体であるDNAについて理解を深める。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境	<input type="checkbox"/> 脊椎動物の血液の形態の違いについて理解を深める。 <input type="checkbox"/> 脊椎動物の血液の形態の違いについて理解を深める。 <input type="checkbox"/> ブタの腎臓を観察することで、腎臓について理解を深める。 <input type="checkbox"/> 免疫による生体防御のしくみについて理解を深める。	
後期	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 第5章 生態系とその保全	<input type="checkbox"/> 生態系を構成する生物の役割について理解を深める。 <input type="checkbox"/> 生態系における窒素の循環について理解を深める。 <input type="checkbox"/> 植物群落の調査を模擬実験し、群落調査の方法についての理解を深める。 <input type="checkbox"/> 溶岩台地上で生じる遷移についての理解を深める。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生物

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物	2年	2	生物 (第一学習社)	生物の必修整理ノート(文英堂) ニューステージ新生物図表(浜島書店) センサー総合生物(啓林館) 生物の実習(岡山県高等学校理科協議会)

科目の目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>① 授業は単元ごとに課題、問いを設定し、探求していく活動を中心におこないます。</p> <p>② 整理ノートの空欄補充を教科書・図表を活用しておこない予習、復習をします。</p> <p>③ 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり、問題集を解くなどして知識の定着を図ります。</p> <p>※ 様々な生物の行動や機能などに興味を持ち、なぜだろうという疑問、知りたいと思う気持ちを大切にしてほしいと思います。</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースなどにおいて、自然科学的出来事に関心を持っておきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	新聞やニュースに出てくるような科学に関する話題にアンテナを張り、疑問に思うことがあれば、徹底的に調べ上げていく姿勢を第一と考える。	目の前にある物から、最大限の情報を引き出し、それを多様に組み合わせることによって、答えのない解答に根拠を見い出す。さらに聞き手が普段使っている言葉を用い、伝達を行うことを第一と考える。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して科学的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	普段の生活の中でふと疑問に思うことに出会ったとき、それをほったらかしにするのではなく、自身が腑に落ちるまでしらべ抜くことで知識を深め、それを他者にアウトプットすることで理解を深めることを第一と考える。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	■細胞と分子 第1節 生体物質と細胞 第2節 細胞膜の働きとタンパク質 第3節 さまざまなタンパク質の働き	<input type="checkbox"/> 細胞を構成する物質について理解する。特に、タンパク質については、基本的な構造を学習したうえで、酵素など、その立体構造と生命活動において果たすはたらきとの関連を理解する。 <input type="checkbox"/> 細胞小器官など、細胞の内部構造とそのはたらきについて理解する。生体膜や細胞骨格については、その構造や機能を理解する。 <input type="checkbox"/> 細胞活動においてさまざまなタンパク質がさまざまな生命現象を支えていることを理解する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	■代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 炭酸同化 第3節 窒素同化 第4節 異化	<input type="checkbox"/> 代謝には同化と異化があることを理解し、両者の違いを説明できる。 <input type="checkbox"/> 植物の光合成と細菌の光合成・化学合成との違いを理解する。 <input type="checkbox"/> 植物の窒素同化の反応を科学的に理解し、窒素同化と窒素固定の違いを理解する。 <input type="checkbox"/> 呼吸と発酵の違いについて意欲的に学習しようとする。	
後期	■遺伝情報の発現 第1節 遺伝情報とその発現 第2節 遺伝子の発現調節 第3節 バイオテクノロジー	<input type="checkbox"/> 「生物基礎」で学習したDNAの構造・複製・タンパク質合成について、その詳細なしくみを理解する。その際、遺伝情報の変化についても学習する。 <input type="checkbox"/> 遺伝子の発現調節の概要を、転写レベルの調節を中心に理解する。 <input type="checkbox"/> 遺伝子を扱ったバイオテクノロジーについて学習し、その原理と有用性を理解する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	■生殖と発生 第1節 有性生殖における遺伝的多様性 第2節 動物の配偶子形成 第3節 動物の発生	<input type="checkbox"/> 染色体に遺伝子が存在することを学習し、有性生殖では、減数分裂と受精によって多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。 <input type="checkbox"/> 配偶子の形成過程を科学的に理解する。精子の構造を理解し、受精の際に起こるさまざまな反応に関心をもち、意欲的に学習する。 <input type="checkbox"/> 受精卵と卵割について理解する。ウニ・カエルの発生過程に関心をもち、理解する。 <input type="checkbox"/> 多くの器官は、内胚葉、中胚葉、外胚葉から分化した組織が集まって形成されていることを科学的に理解する。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 体育

科目	学年	単位数	教科書	副教材
体育	2年	2	ステップアップ高校スポーツ (大修館)	現代高等保健体育 改訂版 (大修館)

科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			
学習活動	①各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 ②各種の運動を適切に行うことによって自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図りたくましい心身を育てる。 ③運動における競争や協同の経験を通じて、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動することができる態度を育てる。			
評価の観点 及び 評価規準	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	知識・理解
	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、公正・協力・責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○グループでの意見交換 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○パフォーマンステスト	○定期考査 ○感想レポート

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	オリエンテーション 体づくり運動 陸上競技 バレーボール（兼球技大会練習） 選択制授業①（以下から1つ） ・陸上競技 ・ソフトボール ・器械運動（マット運動） ・ダンス 選択制授業②（以下から1つ） （グラウンド） ・サッカー ・バスケットボール ・バレーボール ・テニス ・陸上競技 （体育館） ・バドミントン ・卓球	（通年で） <input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> 規定の服装で活動することができる。 <input type="checkbox"/> 用具の準備ができる。 <input type="checkbox"/> グループノートを用いて、授業計画を綿密に立てることができる。 <input type="checkbox"/> 足のリズムを合わせて、大きな声を出し、列を揃えて、集団走ができる。 <input type="checkbox"/> 計画に沿って、グループで協力して活動することができる。 <input type="checkbox"/> 意欲的に練習に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> グループ全員の技能上達を目指して、互いにアドバイスをし合うことができる。 <input type="checkbox"/> 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	年間を通して、「学習活動」の①、②、③をおこない、4つの観点について評価をおこなう。
後 期	選択制授業②（以下から1つ） （グラウンド） ・サッカー ・バスケットボール ・ソフトボール ・バレーボール ・テニス ・陸上競技 （体育館） ・バドミントン ・卓球		
前 期 末 と 後 期 末	体育理論 ・運動やスポーツの技術と技能 ・運動やスポーツ技術の上達過程 ・運動やスポーツの技能と体力の 関係 ・運動やスポーツにおける活動時の 健康、安全の確保の仕方	<input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> グループ内でしっかり発言できる。 <input type="checkbox"/> グループ内で他の意見を聞き、自分の考えを深めることができる。 <input type="checkbox"/> グループ内の意見をまとめて、全体へ向けて発表できる。 <input type="checkbox"/> 正しい知識を身につけることができる。	「学習活動」の①をおこない、4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 保健

科目	学年	単位数	教科書	副教材
保健	2年	1	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)	図説 現代校保健体育 (大修館書店)

科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。		
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムが鳴るまでに授業の教材を準備しておきましょう。 ・課題学習では、先生からの注意事項をよく聞き、指示に従って学習を進めましょう。 ・課題学習では、班の人と協力して準備・レポート作成・発表を行いましょ。 ・欠席した場合は、その日のノート（プリント）を級友から借りて写して理解し、分からなかったら先生に聞きに行きましょう ・課題の提出期限は守りましょう。 		
評価の観点 及び 評価規準	健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
	自他の心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。	健康・安全の意義を理解するとともに、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○レポートやプリント ○グループでの意見交換 ○ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○定期考査 ○ノート 	○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>生涯を通じる健康</p> <p>ア)生涯の各段階における健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期と健康 ・結婚生活と健康 ・加齢と健康 <p>イ)保健・医療制度と地域の保健・医療機関の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健制度と保健サービスの活用 ・医療制度と医療費 ・医療機関と医療サービスの活用 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 思春期における心身の発達や健康問題について、特に性的成熟に伴い、心理面、行動面が変化することを理解する。 <input type="checkbox"/> 健康な結婚生活について、心身の発達や健康状態など保健の立場から理解する。 <input type="checkbox"/> 加齢に伴い、心身が変化することを形態面及び機能面から理解する。 <input type="checkbox"/> 我が国には、人々の健康を守るための保健・医療制度が存在し、総合的な保健・医療サービスが提供されていることを理解する。 <input type="checkbox"/> 生涯を通じて健康を保持増進するためには自己の健康上の課題を的確に把握し、各医療機関及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることを理解する。 	<p>講義型授業や、班の人と協力して準備・レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。</p>
後期	<p>社会生活と健康</p> <p>ア)環境と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境の汚染と健康 ・健康被害の防止と環境対策 <p>イ)環境と食品の保健</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境衛生活動のしくみと働き ・食品衛生活動のしくみと働き ・食品と環境の保健と私たち <p>ウ)労働と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業病や労働災害と健康 ・健康的な職業生活 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 人間の生活や産業活動に伴う大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などは人々の健康に影響を及ぼしたり被害をもたらすことがあることを理解する。 <input type="checkbox"/> 健康への影響や被害を防止するためには、環境の汚染について発生の防止及び改善の対策が必要であることを理解する。 <input type="checkbox"/> 上下水道の整備、廃棄物処理などの環境衛生活動は、自然や社会生活における環境と健康を守るために行われていることを理解する。 <input type="checkbox"/> 食品の安全性の確保は、食品衛生法などに基づいて行われていることを理解する。 <input type="checkbox"/> 環境と食品の保健を守るためには、生産・流通・消費・廃棄の各段階での安全性が求められていることを理解する。 <input type="checkbox"/> 職業病や労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴いその質や量が変化してきたことを理解する。 <input type="checkbox"/> 働く人の健康の保持増進は、職場の安全管理や健康管理と共に心身の両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解する。 	<p>講義型授業や、班の人と協力して準備・レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。</p>

指導と評価の年間計画 音楽Ⅱ（2年）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
音楽Ⅱ	2年	1	MOUSA 2 (教育芸術社)	なし

科目の目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。			
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で、表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の分野から、学習活動を行います。 ・歌唱と器楽では、一人での演奏や少人数でのアンサンブルなど、編成の特長をいかした表現に取り組みます。演奏におけるアイデアを積極的に試し、表現力を伸ばしましょう。 ・「音楽を聴くのは好き」という人は多いのですが、授業での音楽鑑賞は、聴いて楽しむことに留まりません。その音楽に感情を動かされる仕組み、その音楽が登場した時の社会の様子、作曲家の人生と考え方の関わり、といった事柄にも注目します。知ったことから分析したりイメージしたりすることにより、もっと音楽に近づき、新たな魅力にも気づけるのです。 ・楽譜には、音の高さやリズムだけでなく、多くの情報が記されています。音楽理論や音楽史などを学ぶことにより、記号や文字では記されていないことも読み取れるようになります。音楽Ⅰの内容から発展し、より詳しい内容を学びますので、楽譜の内容と関連づけ、表現や鑑賞にいかしましょう。 			
評価の観点 及び 評価規準	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○鑑賞レポート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○実技テスト ○演奏発表	○授業状況の観察 ○実技テスト ○筆記テスト ○演奏発表	○授業状況の観察 ○鑑賞レポート ○筆記テスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歌唱 様々な発声の基礎 日本歌曲 ■ 歌唱・器楽 選択曲 ■ 鑑賞 世界の諸民族の音楽 ■ 歌唱 合唱 ア・カペラ 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 曲種に応じた発声を工夫する。 <input type="checkbox"/> 言葉と音楽の関わりをもたせた表現をする。 <input type="checkbox"/> グループで計画を立て、主体的に学習活動を進める。 <input type="checkbox"/> 表現意図をもった音楽を作り上げ、鑑賞者も楽しめるよう工夫し演奏する。 <input type="checkbox"/> 完成したものを発表・鑑賞し、客観的に評価する。 <input type="checkbox"/> 諸民族の音楽を創造的に鑑賞する。 <input type="checkbox"/> 地域ごとの音楽の歴史や特色などを理解する。 <input type="checkbox"/> 混声(または同声)合唱の楽しさや美しさを味わう。 <input type="checkbox"/> 学習活動を主体的に進め、聴き合いながら歌い、客観的に評価する。 	<p>歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。作品の創作にも取り組む。年間を通じて、4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 創作 楽典 変奏曲の作曲 編曲 ■ 鑑賞 舞台芸術 (バレエ) 独奏曲 世界のポピュラー音楽 ■ 創作・器楽 器楽合奏 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本的な楽語を学習し、読みや表記とともに意味を理解する。 <input type="checkbox"/> 音楽を形づくっている要素を理解し、鑑賞・歌唱・器楽の学習に活用する。 <input type="checkbox"/> 作曲家・出演者・演出家などの意図、芸術に対する理解を深める。 <input type="checkbox"/> 世界のポピュラー音楽の変遷と社会的な流れを関連づけて理解する。 <input type="checkbox"/> 既存の楽曲を編曲し、グループで発表に向けた表現活動を主体的に行う。 <input type="checkbox"/> 様々な楽器を用いて基礎的な奏法や特徴ある奏法を学習する。 	<p>歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。作品の創作にも取り組む。年間を通じて、4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 美術Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
美術Ⅱ	2年	1	高校美術 2 日本文教出版	なし

科目の目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に必要な実技を身につける科目です。 ・学習内容を一体的・総合的に扱ったり、関連付けて扱うなど柔軟に学びます。 			
評価の観点 及び 評価規準	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	日常生活における美術やデザインの持つ役割や美術文化について幅広く理解し、その価値を考え、作品のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■デッサン1 ・幾何形体 ■デッサン2 ・手 ■デッサン3 ・自画像 ■デッサン4 ・石膏像 	<input type="checkbox"/> 立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。(学習内容にかかわらず共通)	様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■進路に関するコースで選択 ・水彩画、油彩画、色彩デザイン、デッサン等より選択して制作 	<input type="checkbox"/> 立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。(学習内容にかかわらず共通)	様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 書道Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
書道Ⅱ	2年 (文系)	1	書Ⅱ(光村図書)	なし

科目の目標	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・書道Ⅰで学んだ知識と技能を活かして、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」の3つの分野についてより深く学びます。 ・授業は、臨書を中心に行います。「臨書」とは、すぐれた古典作品を手本にして書き、その技法を学ぶことです。臨書を通して、用筆・運筆、字形や作品全体の構成など、書の基礎的な力と、幅広い表現技法を身に付けます。そして、臨書で身に付けた力を活かして創作にも取り組んでいきます。 ・作品を「書く」ことだけでなく、「みる」ことも大切です。さまざまな書作品の鑑賞を通して、その作品のよさや美しさについて考え、味わい、自分の表現に活かしていきましょう。 			
評価の観点 及び 評価規準	書への関心・意欲・ 態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の 技能	鑑賞の能力
	書を愛好し、書写能力を高め、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行いその喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、書の美しさを感じ取るとともに、自己の感興に応じた表現ができるよう工夫する。	基本的な用筆法・運筆法を身に付けて、その場に応じた表現ができる。	古典作品や自他の作品を鑑賞し、そのよさや美しさを深く味わうことができる。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 漢字の書（篆書） <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな篆書作品の鑑賞と臨書 ・甲骨文 ・金文 ・小篆 ■ 刻字 <ul style="list-style-type: none"> ・表札の制作 ■ 漢字の書（隸書） <ul style="list-style-type: none"> ・乙瑛碑の鑑賞と臨書 ■ 漢字の書（草書） <ul style="list-style-type: none"> ・十七帖の鑑賞と臨書 ■ 漢字の書（楷書・行書） <ul style="list-style-type: none"> ・集王聖教序の鑑賞と臨書 ・始平公造像記の鑑賞と臨書 ■ 漢字の書（創作） <ul style="list-style-type: none"> ・既習の古典を活かした条幅作品の制作 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 篆書の基本用筆を習得し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> それぞれの古典について特徴を捉え、臨書表現の工夫をする。 <input type="checkbox"/> 刻字の手順・方法を理解し、表現を工夫する。 <input type="checkbox"/> 基本的な刻字の技法を習得する。 <input type="checkbox"/> 隸書の基本用筆を習得し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> 草書の特徴を理解し、臨書表現の工夫ができる。 <input type="checkbox"/> 書道 I の学習をもとに楷書、行書の多様な表現への理解をより深める。 <input type="checkbox"/> 古典臨書で学んだ表現技法を活かして漢字創作を行うことができる。 	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仮名の書 <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな古筆の鑑賞と臨書 ・高野切第三種 ・関戸本古今集 ・寸松庵色紙 ■ 漢字仮名交じりの書 <ul style="list-style-type: none"> ・用具用材の工夫 ・表現の工夫 ・題材の工夫 ■ 創作（自分の好きな言葉を書く） ■ 完成作品の鑑賞会 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 仮名の基本用筆を習得し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> それぞれの古筆について特徴を捉え、臨書表現の工夫をする。 <input type="checkbox"/> 古筆を基にいろいろな表現方法を身に付ける。 <input type="checkbox"/> 用具用材の効果を理解し、表現に応用できる。 <input type="checkbox"/> 字形の構成、全体の構成について工夫することができる。 <input type="checkbox"/> 表現方法を自ら構想し、意図に合わせた創作ができる。 <input type="checkbox"/> 他の生徒の良いところ、自分の作品の意図や工夫点を客観的に分析し、発表することができる。 	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

笠岡高等学校 2019年度 CAN-DO リスト

【参考資料】 CEFR-J 京外国語大学 投野由紀夫 研究室

①卒業時に身につけさせたい英語力

Reading	社会性のある話題の英文を初見で毎分120語程度の速さで読み、概要を理解することができる。
Listening	様々な話題の比較的長い会話やモノローグを聞き、毎分140語程度の速さではっきりとした言葉で話されれば概要を理解することができる。
Writing	社会性のある話題などの与えられたトピックについて、自分の意見や感想を100語程度の英語で書くことができる。
Speaking	社会性のある話題などの与えられたトピックについて、まとまった考えや感想を英語で話すことができる。

②高校3年間の到達目標

技能 段階	入学前	1年	2年	3年
Reading	簡単な語を用いて書かれた、興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真を参考にしながら理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた人物描写・場所・日常生活・文化などの、説明文を理解することができる。	簡単な英語で表現されている実用的・具体的で、内容が予想できるものから必要な情報を探することができる。	学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。
	簡単な語を用いて書かれた、挿絵のある短い物語を理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた短い物語や伝記などを理解することができる。	日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。	構成がはっきりとした物語の筋を理解することができ、最も重要なエピソードや出来事は何か、それらに関して重要な事は何かを認識することができる。
Listening	ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。	ゆっくりはっきりと放送されれば、簡潔なアナウンスを理解することができる。	ゆっくりはっきりと指示されれば、一連の行動を、指示通りに行動することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、外国の行事や習慣などに関する説明の概要を、理解することができる。
	簡単な用をたすのに必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	明確で具体的な事実を、はっきりとした発音で指示されれば、要点を理解することができる。	視覚補助のある作業の指示を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞いて理解することができる。	自分の周りで話されている少し長めの議論でも、はっきりとした発音であれば、その要点を理解することができる。
Writing	自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。	日常的・個人的な内容であれば、簡単な英語で書くことができる。	身の回りの出来事や自分に関係することについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。	自分に関わりのあることを、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。
	趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語彙や基礎的な表現を使って書くことができる。	文と文を簡単な接続詞でつなぎ、基礎的・具体的な語彙、簡単な句や文を使った簡単な英語で、まとまりのある文章を書くことができる。	聞いたり読んだりした説明文や物語であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。	身近な状況で使われる語彙・文法を用いれば、筋道を立てて、作業の手順などを示す説明文を書くことができる。
Speaking	身近なトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。	つなぎ言葉や基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。	簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、自分の意見を伝えたり、物や人を比べたりすることができる。	身近なトピックについて、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。
	基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。	視覚的補助を利用しながら、基本的な情報を伝え、また、簡単な意見交換をすることができる。	予測できる日常的な状況ならば、さまざまな語や表現を用いてやり取りができる。	個人的に関心のある具体的なトピックについて、簡単な英語を多様に用いて、会話を続けることができる。
	前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い、複数の文で意見を言うことができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。	視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の生活に直接関連のあるトピックについて、短いスピーチをすることができる。	使える語句や表現を繋いで、自分の考えを順序だて、話を広げながら、ある程度詳しく語るすることができる。
	前もって発話することを用意した上で、日常生活に関する簡単な事実を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で描写できる。	視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な句や文を使って、身近なトピックについて短い話をすることができる。	一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由を挙げて短く述べるることができる。	身近なトピックや自分に関心のある事柄について、自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、聞き手にわかりやすく語るすることができる。
CEFR-J	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1
数値目標		GTEC TOTAL SCORE 440	GTEC TOTAL SCORE 480	GTEC TOTAL SCORE 500
資格目標	英検3級	英検準2級	英検準2級～2級	英検2級
履修科目		コミュニケーション英語Ⅰ、英語表現Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅱ

※3年次の数値目標はGTEC受験時(6月)の数値です。

指導と評価の年間計画 コミュニケーション英語Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
コミュニケーション英語Ⅱ (英語ⅡA・C)	2年	4	CROWN English CommunicationⅡ New Edition(三省堂)	・総合英語 Vision Quest(啓林館) ・キクタンBasic(アルク) ・スーパーアンカー英和辞典(学研)

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。			
学習活動	<p>①ディスコースマーカーや文構造に注意しながら、論説文、説明・物語文などを読み、内容や情報を整理し、理解を確認する。本文の大意を把握し、英語で要約と感想を述べる。</p> <p>②学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどの主題について、話し合ったり、各自の考えや説明を文章として簡潔に書く。</p> <p>③新出単語・イディオムを学習し、日本語から英語への自動化を図る。また、文法問題に取り組み、その文法事項を使って自分の意見を述べる。</p> <p>※「予習－授業－復習」のサイクルを習慣化する 授業で初めて何を学習するのか知るのではなく、あらかじめ自分の理解できることとできないことを明確にして授業に臨むことが大切です。予習、授業で内容を十分に理解した上で、徹底した復習で習った英語を定着させることが大切です。この学習サイクルを身につけ「英語」に対する努力を積み重ねていけば、英語を必要とする様々な場面で実力を発揮できます。</p> <p>※習った日に復習する 習ったところは声に出して音読をし、英語を身体、頭の中に取り入れ(input)、さらに繰り返し音読をすることで英語を深く自分の中に定着させます(intake)。目から情報を入手するだけでなく、口から発音し、自分の声を耳で聞き、ときに書いてみてあらゆる感覚を駆使して、学習した英語を自分の中に定着させましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
	コミュニケーションに関心 を持ち、積極的に言語 活動を行い、コミュニケ ーションを図ろうとする。	英語で話したり書いた りして、情報や考えなど を適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだり して、情報や考えなどを 的確に理解している。	英語やその運用につい ての知識を身に付けて いるとともに、言語の背 景にある文化などを理 解している。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○課題の点検 ○定期考査、課題 考査	○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題 考査	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題 考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	Lesson 1 Life as a Journey	<input type="checkbox"/> 過酷な旅を通して数々の名句を詠んだ松尾芭蕉の足跡をたどりながら、その作品を鑑賞して日本の自然美を味わい、また人生において旅の持つ意味について考える。 <input type="checkbox"/> 「神の手」を持つと言われる医師・天野篤が経験した幾度もの挫折と不断の努力を知り1つのことを究めることの大切さを学ぶ。また、将来の職業について考える。 <input type="checkbox"/> インスタレーションアートの例を鑑賞しながら新しい視点で物事を捉えるきっかけをもたらすという芸術の側面について考える。 <input type="checkbox"/> 経済状況の違いは人の行動や感情に影響を及ぼすのか。社会心理学実験を通して、世界に広がる経済格差の問題について考える。 <input type="checkbox"/> 急速に発達を遂げるAI（人工知能）について学びながら、AIの持つ可能性と危険性また人類とAIの未来について考える。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。
	Lesson 2 God's Hands		
	Lesson 3 Captured by Art		
	Lesson 4 Does Money Make You Mean?		
	Lesson 5 The Biggest Event in Human History ... Or the Last?		
後期	Lesson 6 Only a Camera Lens between Us	<input type="checkbox"/> DDR（武装解除・動員解除・社会復帰）に携わる瀬谷ルミ子の活動を通して、平和のあり方と、その平和にどのように貢献できるかについて考える。 <input type="checkbox"/> デイビッド・クリスタルの言語についての文章を読む。複数言語併用の現実や言語の統制・抑圧の事例などを通し、自分自身および他者の母語の大切さを知る。 <input type="checkbox"/> リチャード・ドーキンスの科学エッセイを読む。不思議な事象と人々の反応の事例を通して、物事を科学的に考えることの意義を知る。 <input type="checkbox"/> 小世界を襲う水危機について考える。自身が消費している「ヴァーチャルウォーター」について知り、環境保護のあり方を考える。 <input type="checkbox"/> 2016年5月、現職の米大統領として初めて被爆地・広島を訪れた、バラク・オバマ氏によるスピーチを読む。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。
	Lesson 7 Being Bilingual		
	Lesson 8 The Magic of Reality		
	Lesson 9 Green Revolution, Blue Revolution		
	Lesson 10 Looking into the Eye of History		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 英語表現Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
英語表現Ⅱ (英語ⅡB)	2年	2	Vision Quest English Expression Ace (61 啓林館 英Ⅱ 322)	・総合英語 Vision Quest(啓林館) ・キクタンBasic(アルカ) ・スーパーアンカー英和辞典(学研)

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。			
学習活動	<p>①例文の内容を理解し、自然な音読ができるまで練習し、暗唱する。</p> <p>②文法項目の確認と、Build-up/Expressionの文法項目/表現の理解</p> <p>③Practiceなどを活用し、文法項目と表現の定着と、日本語から英語への自動化を図る。</p> <p>④学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどの主題について、話し合ったり、各自の考えや説明を文章として簡潔に表現する。</p> <p>以下の学習に対する姿勢が、日々の学習活動①～④を支える大切な柱となります。</p> <p>1)「予習－授業－復習」のサイクルを習慣化する あらかじめ自分の理解できることとできないことを明確にして授業に臨むことが大切。予習、授業で内容を十分に理解した上で、徹底した復習で定着させることが大切です。この学習サイクルを身につけ努力を積み重ねていけば、英語を必要とする様々な場面で実力を発揮できます。</p> <p>2)授業中はしっかり活動する 英語の勉強は先生の解説を聞くだけの受身的な姿勢では力がつきません。学習した内容を音読練習や意見交換など様々なペアワークやグループワークでのアウトプットを通して、英語で考え、英語を使うことになれていきましょう。クイックレスポンスを意識して積極的に活動し、英語を使うことに慣れていきましょう。</p> <p>3)習った日に復習する 習ったところは声に出して音読をし、英語を身体、頭の中に取り入れ(input)、さらに繰り返し音読をすることで英語を深く自分の中に定着させます(intake)。目から情報を入手するだけでなく、口から発音し、自分の声を耳で聞き、ときに書いてみてあらゆる感覚を駆使して、学習した英語を自分の中に定着させましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
	コミュニケーションに関心 を持ち、積極的に言語 活動を行い、コミュニケ ーションを図ろうとする。	英語で話したり書いた りして、情報や考えなど を適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだり して、情報や考えなどを 的確に理解している。	英語やその運用につい ての知識を身に付けて いるとともに、言語の背 景にある文化などを理 解している。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○課題の点検 ○定期考査、課題 考査	○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題 考査	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題 考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい (各課で以下の項目を学習)	学習活動
前期	Part1 Lesson 1 お花見 Lesson 2 漫画の楽しみ Lesson 3 京都へ観光に Lesson 4 私の家族です Lesson 5 保育園での授業体験 Lesson 6 サプライズパーティー Lesson 7 映画のお誘い	<input type="checkbox"/> 主語の決定/見えない主語の発見/主語のit <input type="checkbox"/> 主語になる名詞句/形式主語 <input type="checkbox"/> 無生物主語 <input type="checkbox"/> 自動詞と他動詞/間違えやすい自動詞と他動詞/群動詞 <input type="checkbox"/> SVO <input type="checkbox"/> SVOO <input type="checkbox"/> SVC <input type="checkbox"/> SVOC <input type="checkbox"/> 使役動詞 <input type="checkbox"/> 知覚動詞 <input type="checkbox"/> 直接話法と間接話法/間接話法で伝達	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④を行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。
	Lesson 8 航空管制官になる Lesson 9 趣味はピアノ Lesson 10 『タイタニック』を見て Lesson 11 世界遺産の魅力 Lesson 12 ボランティア活動 Lesson 13 制服に賛成？ 反対？ Lesson 14 ローマの魅力 Lesson 15 思い出の写真 Lesson 16 科学技術の利用 Lesson 17 携帯電話は便利だけど…	<input type="checkbox"/> 「～する」/「～している」 <input type="checkbox"/> 「～した」/「～していた」 <input type="checkbox"/> 能動態と受動態/日本語との違い <input type="checkbox"/> 「もし(今)～ならば」/「もし(あの時)～だったなら」 <input type="checkbox"/> 義務・必要を表す/推量を表す 助動詞 <input type="checkbox"/> 数量を表す/名詞を前から修飾する語句 <input type="checkbox"/> 名詞を後ろから修飾する①/② <input type="checkbox"/> 関係代名詞 <input type="checkbox"/> 関係副詞 <input type="checkbox"/> 副詞・副詞句/不定詞や分詞を使った副詞句 <input type="checkbox"/> 副詞節①/②	
	Lesson 18 犬派？ 猫派？ Lesson 19 思い出深いプレゼント Lesson 20 インターネットの問題点	<input type="checkbox"/> 原級/比較級 <input type="checkbox"/> 最上級/最上級を意味する表現 <input type="checkbox"/> no + 名詞, no-で始まる代名詞 <input type="checkbox"/> 部分否定 <input type="checkbox"/> 準否定	
	Part 2 Lesson 1 文と文をつなぐ Lesson 2 ロボットの有用性 Lesson 3 英語を学ぶ意義 Lesson 4 都会と田舎 Lesson 5 深刻な黄砂問題 Lesson 6 ベジタリアン Lesson 7 リスニングの要約	<input type="checkbox"/> 文と文をつなぐ <input type="checkbox"/> パラグラフの構成 <input type="checkbox"/> 列挙・順序 <input type="checkbox"/> 例示・追加 <input type="checkbox"/> 比較・対照 <input type="checkbox"/> 原因・理由・結果 <input type="checkbox"/> リーディングの要約 <input type="checkbox"/> リスニングの要約	
	Part 3 Lesson 1 プレゼンテーション (Presentation) Lesson 2 ディスカッション (Discussion) Lesson 3 デイバート(Debate)	<input type="checkbox"/> ブレインストーミング <input type="checkbox"/> 資料を探す <input type="checkbox"/> アウトラインの作成 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションの原稿/表現 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションの準備/実施 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションの質疑応答 <input type="checkbox"/> 発表者の評価 <input type="checkbox"/> Practice <input type="checkbox"/> ディスカッションの進め方/例 <input type="checkbox"/> ディスカッションに役立つ表現 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> Practice <input type="checkbox"/> デイバートの進め方/デイバートの準備 <input type="checkbox"/> デイバートを行う上での注意点/判定/表現 <input type="checkbox"/> Practice	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 家庭基礎

科目	学年	単位数	教科書	副教材
家庭基礎	2年	2	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)	家庭科55資料集・学習ノート (教育図書)・(東京書籍)

科目の目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
学習活動	<p>・生活にかかわる事柄（衣食住、消費生活、家族、福祉）を各ライフステージの生活課題に関連づけて主体的に学べるよう題材を設定しています。授業時間の約半分が講義、残りが実験・実習などの実践的・体験的な学習です。</p> <p>・主にワークシートを使って学習します。ファイルに保存し、提出をします。学習ノートは空欄補充を教科書を活用しておこない復習をします。</p> <p>※友達とも積極的に意見交換をしましょう。人の価値観や様々なライフスタイルに関心を持つことも大切です。</p> <p>※生活技術の習得も生きる力をつけるための大切な学習となります。卒業後、大学生活で一人暮らしをする場合に困らない程度の技術を身につけましょう。</p> <p>※日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
評価方法	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> ワークシート・学習ノート（提出） <input type="checkbox"/> 実習・課題への取組	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> ワークシート・学習ノート（考察） <input type="checkbox"/> 実習・課題の取組 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 定期考査	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> 作品	<input type="checkbox"/> 定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>■ 家族・社会との共生</p> <p>第1章 自分らしい人生をつくる</p>	<p>□ 家庭科の学習が、家族・社会の共生、生活の自立、生活の創造につながることを理解し、学習に対する意欲を高める。</p> <p>□ 男女が相互に協力して家庭を気づくことの重要性を理解し、家庭生活のあり方について考える。</p> <p>□ 高校卒業後について経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。</p> <p>□ 日常の食生活を振り返り、食生活の変化や課題について理解する。基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。</p> <p>□ ホームプロジェクトの発表を通して、生活課題を発見する視点やその課題を解決するための手立てについて理解を深める。</p> <p>□ 子どもの育つ力と発達段階を知り、人生の初期における親・家族や周囲の人々のかかわりの大切さを学ぶ。</p>	<p>テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実験・実習などをおこない、4つの観点についての評価をおこなう。</p>
	<p>ホームプロジェクト (夏課題)</p>		
	<p>第2章 子どもと共に育つ</p>		
	<p>第8章 経済生活を営む</p> <p>第5章 食生活をつくる</p>		
後期	<p>第6章 衣生活をつくる</p>	<p>□ 被服のさまざまな役割を整理し、被服管理できるための知識と技術を身につける。</p> <p>□ 高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解し、高齢者を支える制度と課題を考える。</p> <p>□ 一生を通した福祉や社会的支援の必要性を知り、社会保障制度の理念と内容を理解する。</p> <p>□ 食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。</p> <p>□ 日本の伝統的な食文化を知る。</p> <p>□ 住居の機能や間取りについて理解し、ライフステージにあった住居を考える。</p> <p>□ これまでの学習を踏まえて、自分の目指すライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。</p>	<p>テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実験・実習などをおこない、4つの観点についての評価をおこなう。</p>
	<p>第3章 高齢社会を生きる</p> <p>第4章 共に生き、共に支える</p>		
	<p>第5章 食生活をつくる</p>		
	<p>第7章 住生活をつくる</p>		
	<p>■ 生活の創造</p> <p>第9章 生活を設計する</p>		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。